

市所有施設の健康・医療施設維持管理計画（案）

市では将来世代に健全な財政と魅力あるまちを引き継ぐことを現世代の責務とし、持続可能な自治体であり続けるため、平成 29 年 2 月公共施設等総合管理計画を策定しました。

ここでは、公共施設等総合管理計画における類型別方針にあたる市域の健康・医療施設の維持管理等について記載しています。

公共施設等総合管理計画の目的等は次のとおりです。

1 計画の目的

（１）長期的な健全財政と公共施設等の維持・更新

必要な公共サービスは維持・向上させつつ、将来も健全な財政状況を維持していくため、既存公共施設は予防保全による計画的な維持管理で長寿命化を図る。また、更新等に際しては統廃合、複合化、多機能化、転用等による総量の縮減や整備水準等の適正化を進めていく。

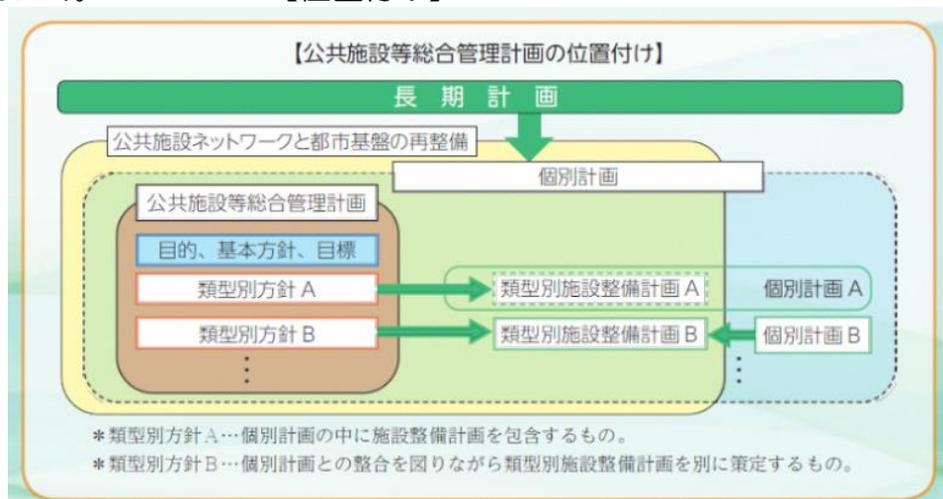
（２）安全性や利便性に優れた公共施設等の再整備

市民が安全に安心して利用できる公共施設等であることはもとより、バリアフリーや省エネルギー、利用者の満足度などにも着目し、時代のニーズに合った公共施設等の再整備を行っていく。

（３）魅力あるまちづくりを目指した新たな価値の創造

公共施設等はまちの魅力や都市文化を醸成する重要な要素であり、個々の施設の維持・更新や再整備に留まらず、武蔵野市の将来像を見据えた大きな視点で、新たな価値を創造していく。

【位置付け】



本計画で取扱う施設は次の通りです。計画期間は、第4期健康推進計画と同じく、平成30年度（2018年度）から6年間とします。

（1）武蔵野市立保健センター

＜施設概要＞

建物の名称 武蔵野市立保健センター

建設年月日 昭和62年8月

延床面積 4,466.88 m²

＜設置に関わる背景＞

昭和52年4月武蔵野市第1期長期計画第二次調整計画で「市民の健康管理体制の確立」として新たな課題の検討を開始。

平成53年4月の厚生省「市町村保健センター整備要綱」を制定

平成57年2月健康づくり市民委員会の答申

昭和58年6月保健センター建設専門家会議

昭和60年2月～建設予定地決定し、昭和61年7月工事着工、昭和62年8月竣工

*保健センター開設と同時に財団法人武蔵野健康開発事業団設立（平成17年7月から公益財団法人武蔵野健康づくり事業団）

＜現状と課題＞

保健センターには市健康課、公益財団法人武蔵野健康づくり事業団、一般社団法人武蔵野市医師会 臨床検査センターの3つの組織が入っています。

市健康課では、健康相談、妊婦相談、育児相談、栄養相談などの相談業務、健康に関する情報の提供、予防接種、健康増進事業、各種健康診査など、疾病の予防、生活の改善のための各種事業を実施しています。

公益財団法人武蔵野健康づくり事業団は、人間ドックや健康増進事業などを実施、また、一般社団法人武蔵野市医師会 臨床検査センターは市内の医療機関からの血液、尿などを検査・分析などを行っています。

保健センターは、平成29年10月末日をもって開設から30年を経過しました。経年劣化及びこの先30年間の運営方法、施設利用等を踏まえ、長寿命化のための改修を行う必要があります。

改修は大規模なものと想定されるため、工事期間中の市健康課及び公益財団法人武蔵野健康づくり事業団が実施する健康診査、健康増進事業の運営、公益財団法人武蔵野健康づくり事業団、一般社団法人武蔵野市医師会臨床検査センターの保有するCT等の検査機器の取り扱いなどの対応は不可欠です。また、工事期間は長期にわたることを考慮して、一時移設を視野に入れ、その影響を十分検討し進めていく必要があります。

(2) 武蔵野赤十字病院感染症病棟

<施設概要>

建物の名称 感染症病棟
 建設年月日 平成 11 年 3 月
 延床面積 871.26 m²

<設置に関わる背景>

伝染病予防法に基づき、武蔵野三鷹地区保健衛生組合が建設、また、「感染症病棟の賃貸借等に関する基本協定（平成 11 年 4 月 1 日締結）」により、日本赤十字社東京支部（武蔵野赤十字病院）に貸し付けし、管理運営を、武蔵野赤十字病院が行うこととしています。平成 15 年、上記組合の解散に伴い、市に無償譲渡されました。

<現状と課題>

現在、平成 33 年度（2021 年度）竣工を目指して、新病棟建替えの計画が進められています。このことに関連し、平成 29 年 10 月 20 日付で武蔵野赤十字病院側から、新病院建設に係る要望書が提出されました。

市としては、この要望書の内容に対して総合的かつ、慎重な判断が必要と考えます。具体的には、市が所有する必要性の有無を再考し、施設運営等の他、資産譲渡等の可能性について検討する必要があります。

(3) 対象施設の実施計画概要

類型	施設名	建築年度	残耐用年数	対策内容
健康・医療施設	武蔵野市立保健センター	S62 (1987)	29	<ul style="list-style-type: none"> ・建設から 30 年を経過しているため、劣化状況、利用状況を踏まえ、大規模改修を行い長期利用します。 ・保健センターには市健康課の他、公益財団法人武蔵野健康づくり事業団、一般社団法人武蔵野市医師会臨床検査センターがあるため、サービスを継続しつつ、今後の事業充実を図るため、整備方針を検討します。整備方針の作成にあたっては、その影響を十分考慮し、進めていきます。 ・改修時期は、計画期間中に改修が実施できるよう、必要な検討を行います。 ・なお、今後 10 年の対策費用としての維持改修費用を約 4 億 4 千万円*1 と見込んでいます。
	武蔵野赤十字病院感染症病棟	H11 (1999)	46*	

*耐用年数 65 年

*1 費用は、公共施設等更新費用ソフトの単価を参考に市の整備水準等を踏まえ試算。公共施設等総合管

理計画 資料 59 頁 3 財政予測に関する補足資料参照。

ただし、感染症病棟の施設運営は武蔵野赤十字病院が行っているため、上記改修費用は市が費用負担したと想定した場合の費用。